

受講番号 18014 学校名 高知東高等学校 氏名 長谷 尚子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 12名
 科目名 実用英語b 単位数(授業時数) 2時間 使用教科書名 Listening Trial (Standard Level), 'Gateway to Rea
 クラスの様子・特徴

英検準2級の合格を目指す実用英語bのクラスは、3年生12名(男子2名、女子10名)である。今年度の第1回英検受験希望者は、3級2名、準2級5名、2級1名である。少人数であり、また、同じ選択授業を受講している生徒が多く和やかな雰囲気がある。

問題の確定

英検準2級合格を目指してどのような授業をしていくか。特に、全領域で必須の語彙力を向上させるにはどのようにすればよいのか。

予備調査

A 授業の観察

ほとんどの生徒が英検合格を目指し、熱心に取り組んでいる。過去の英検問題に取り組ませるが、全体的に準2級合格には語彙力が不足していることを痛感する。また少人数のクラスではあるが、生徒の英語力や意欲に差があり教授内容、進度等考えることが多い。

B 生徒による授業評価

9割の生徒が、授業の内容が理解できていて説明の仕方にも問題ないと答えている。しかし進度については、もう少しゆっくり進めてほしいと希望している生徒が4割いる。英語音読練習の多さや、疑問点をきちんと質問できる和やかな雰囲気を感じている。

C 学力データ

英語課題探究では、8名が上級クラスに、4名が中級クラスにいる。5月1日実施の語彙力診断テストでは1000語レベル平均948.5点、2000語レベル平均1518.1点であった。4月までに準2級を2名、3級を5名、4級を4名取得している。

リサーチ・クエスチョン

実用英語技能検定試験準2級に合格するのに必要な語彙力をつけるには、どのように指導すればよいのか。

仮説・実践・検証

仮説1

毎授業に、準2級対策の英単語熟語の小テストをする。その前時には、単語、熟語の読み練習と、例文の読み練習を行い、書くだけでなく読むことのできる力もつけていけば語彙力は伸びるであろう。

実践1

英検準2級の合格を目指した英単語、熟語、会話表現について、ほぼ毎回小テストを実施した。教員の発音する英語を聞き取り、英語を書くと同時に、その日本語の意味を書くという形式で、1回10問出題し、12月初旬までに28回実施した。次回の小テスト対策として、語彙を発音することができ、文中でどのように使われるのかを理解させるため、リピート読みを実施して、語彙力の定着を目指した。

検証1

単語小テストの平均点(12月初旬段階、28回実施、20点満点)は、クラス全体では、12.6点である。個々の生徒の平均点の最高は18点で、平常より真面目にこつこつ取り組む生徒にとっては、語彙力アップにつながったのではないかなと思う。年度当初実施した語彙力診断テストを11月後半にも実施したが、わずかでも向上していることからみると、単語小テストは効果があったと思う。

仮説2

まとまりのある英文を読み、内容を理解する過程をふめば、さらに語彙力は伸びるであろう。

実践2

テキスト'Gateway to Reading'を用いて、内容理解をするうえで必要な語彙の説明をし、その単語、熟語の定着を図るため、復習小テストを実施した。文中でどのように使われているのかを理解させるため、音読を繰り返した。また英文を多く読ませる目的で、授業のはじめ10分程度を使って、英文を速読み、日本語で要約させてみた。簡単なまとまりのある英文のキーとなる語彙をすばやく理解させる練習を行った。

検証2

定期テストや小テストの結果からは、テキストに出てくる語彙は定着しているように思える。ただ、テキストで扱った語彙自体が英検準2級レベルより易しかったことで、目標とする語彙力のアップが図れたとは確信できない。投げ込み教材で、簡単な英文を日本語で要約する作業を行ったが、簡潔な笑話を用いることで語彙を印象付けること、制限時間内に、すばやくキーになる英語を見つける訓練ができたと思われる。

仮説3

リスニング練習やテストをした後で、そのスクリプトを生徒に渡し、家庭学習をさせれば、リスニングを通して、語彙力は伸びるであろう。

実践3

Listening Trial"を使用して20回テストを行い、1冊終了した。前半はテキストの設問をこなしていくのみだったが、後半からはそれに加えて、スクリプトを用いてCDを聴きながら、空所補充に取り組んだ。ポイントとなる英語の空所補充をさせることにより、語彙力の向上を目指した。また定期テストには、付属のSupplementary Testを行い、復習をかねて空所補充を出題し、語彙力の定着を図った。

検証3

英語を聴き放しにするのではなく、視覚を通じて確かなものにしていく過程で、ポイントになる英語に注意させることができたと思う。家庭学習については点検ができず、個々の生徒任せに終わってしまった。授業中小テスト形式で確認した語彙を、定期テストでさらに確認させていくことにより、聴き取り、理解、さらに書くという力を養うことができたのではないかなと思う。

研究の成果

語彙力診断テスト(11月末実施)で、平均点が1000語レベルで22.9点、2000語レベルで134.2点向上、わずかながら語彙力は向上したと思う。第1回英検では、準2級に2名合格、3級に1名合格した。わずかな点差で不合格になった生徒もいたため、第2回の受験を促したが、進路決定の大切な時期と重なり、受験者ゼロに終わってしまった。第3回については、2級受験予定者が1名である。リスニングにおける語彙力は、ALTを交えた授業に積極的に参加していることから見て、少しでも向上していると考えている。

今後の授業改善の課題

ゆっくりした進度を希望する生徒は2割に減ったとはいえ、根強いものがある。授業内容の精選と進度について、さらに考える必要がある。単語小テスト、内容理解、リスニングの3点から語彙力の向上を目指し、ある程度の感触を得ることができ、今後も継続していきたい。ただ、語彙の難易度は再考したい。また、2次対策として、ALTとの授業をできるだけ多く取り入れ、コミュニケーション上での語彙力の向上を目指したい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-845-5751

電子メール

naoko_hase@kt.kochinet.ed.jp